PENTAX[®] SF3©



このたびはベンタックスSFXカメラをお買い上げい ただき、誠にありがとうございます。

SFXは「オートフォーカス」「内蔵オートストロボ」「マルチプログラム自動露出」「モータードライブ」などの機能を装備していますから、あらゆる撮影目的に合わせてお使いいただけます。また、外部のLCD表示パネルにより撮影情報を集中表示する高精度なシステム一眼レフカメラです。

ご使用前にこの使用説明書をよくお読みのうえ正し くお使いください。

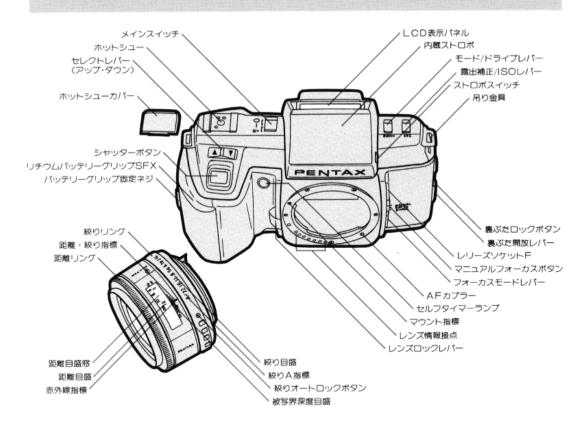




Fズーム35~70mm F3.5~4.5付



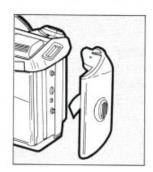
各部の名称は表紙と裏表紙の内側にありますので、 開いて、各ページを読みながらご覧いただくことも できます。





ビントの合わせ方[マニュアルフォーカス]34~35
フィルムの巻戻し方36~37
ブログラム線図・測光/連動範囲38-39
内蔵ストロボの使い方40~41
ベンタックス・専用オートストロボの使い方…42~45
TTLオート・外光オートストロボ44~45
メモリーロック46~47
露出補正48~49
セルフタイマーの使い方50
bulb[パルプ]・100[1/100秒]51
被写界深度・赤外線指標の使い方52-53
交換フォーカシングスクリーン54
ストラップ・ケース55
アクセサリー
[AFアダプター1.7×・AF400FTZ
データバック・その他]56~58
電池について59
取扱い上の注意60-61
仕様62-63
お問い合わせは次の各サービス窓口へ64~65
アフターサービスについて67

準備のポイント



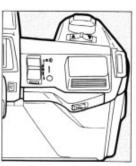
 バッテリーグリップを取りはずして、リチウム電池を入れます。 (4~5ページ)



 ペンタックスFレンズを 取りつけます。 (6~7ページ)



 裏ぶたを開いてフィルム を入れます。 (10~13ページ)

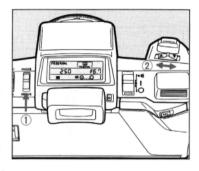


4. メインスイッチをONに します。(8ページ)

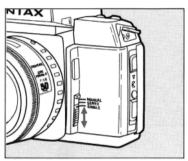
SFXは、オートフォーカスカメラですから撮影は 非常に簡単です。しかし、準備や使い方を間違え たりすると正しく動きません。また、いろいろな 撮影方法がありますので詳しい説明は各ページを ご覧ください。



視度調節を行なってから、 付属のアイカップドをカメ ラのアクセサリー取りつけ 溝に差し込みます。 (28ページ)



モード(MODE)側にレバーを押しながら、セレクトレバー(▲▼)で露出モードを決めます。
 (8·14~25ページ)



 フォーカスモードレバーをシング ル(SINGLE)に合わせます。 (29ページ) シャッターボタンを軽く押すと、 レンズが作動してオートフォーカ スが働きます。(30~35ページ)



 ファインダー画面中央の[□]マークを写したいものに合わせます。 シャッターボタンを軽く押して、ファインダー下の[○]表示(緑色) が点灯すればピントはOKです。 (30~35ページ)

●フィルムの規定枚数を撮影したら、パトローネにフィルムを卷戻します。撮影済のフィルムは、早めにカメラ店へ出しましょう。[36~37ページ]

3

準 備

SFXには、標準セットとして、リチウムバッテリーグ リップSFXが付いています。このグリップには、次の 6 Vリチウムパック電池 1 個を使用します。 リチウム電池

BR-P2_{DP} [日本・ナショナル/パナソニック製品]

DL 223A [アメリカ・デュラセル製品]

2CR5 [日本・サンヨー製品]

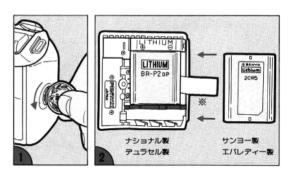
EL2CR5 [アメリカ・エバレディー製品]

※上記以外のタイプでは、電圧特性が劣るため、使用中にバッテリー警告マークロが出る場合があります。 [シャッターがきれるうちは、撮影できます。]



●電池の入ったバッテリーグリップ を着脱するときには、表示パネル の表示が全て表示され、ストロボ の充電完了ランプも点灯します。

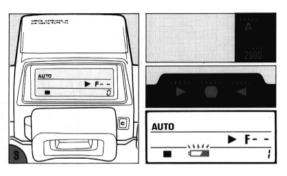
電池の入れ方[リチウムバッテリーグリップ]



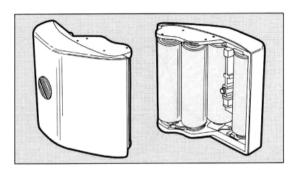
- 1. バッテリーグリップ固定ネジをコインなどで左方向 に回して取りはずします。
- 2.バッテリーグリップ内側の⊕●表示に合わせてリチウム電池を入れ、バッテリーグリップを元の位置に取りつけます。

[リボンを引っぱると、電池は簡単に取出せます]

※BR-P2_{DP}[ナショナル製] や DL 223A [デュラセル製] 電池は、図の赤線部分の内枠に電池をはめ込みます。2CR5 [サンヨー製] や EL2CR5 [エバレディー製] 電池は、少し長いので外枠内に入れます。



3.図のように、セットされている露出モードが表示パネルに出ます。表示が全く出ないときや逆に全LCDが出たままのときは、電池の容量がないか、電池が正しく入っていないときです。もう一度確認してください。[LCD=液晶表示]



図のように、単3バッテリーグリップSFX(別売)には、次の電池を4本取りつけて使用します。電池を入れるときは、⊕●表示に合わせて正しく入れてください。 ●側を先に入れ、出すときは板バネ側⊕から出してください。

※雷池消耗警告

電池が消耗して容量がなくなってくると、表示パネルのバッテリー警告マーク □ とファインダー内の表示が点滅して知らせますので、新しい電池と交換してください。また、電池容量が使用限界を越えるとシャッターがきれなくなります。

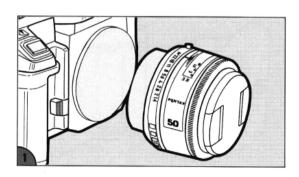
使用可能電池

単3形アルカリ乾電池LR-6

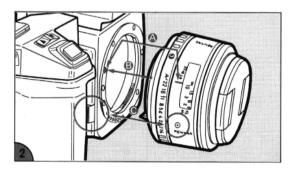
- 単 3 形マンガン乾電池[SUM-3]も使えますが、 撮 影本数は極めて少なくなるので、アルカリ乾電池を おすすめします。
- Ni-Cd電池は使用できません。

5

レンズの取りつけ・交換[すでに取りつけられているときも読んでください]

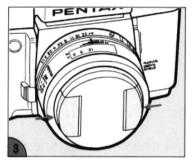


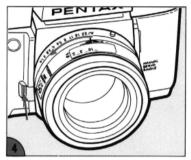
 ボディーマウントカバーやレンズマウントカバーを はずします。

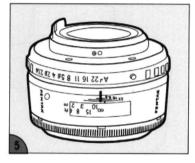


2.ボディーとレンズは赤点指標 ②・③を合わせて取り つけます。レンズを右に回すとカチッと音がしてロックされます。 ●で合わせる方法は、暗い所で手ざ わりで行なうときなどにご利用ください。

● 別売りで、バヨネットタイプのボディーマウントキャップ F やレンズマウントキャップ K が用意されております。







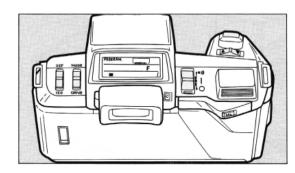
- 3. レンズキャップは、両側の矢印部分を内側に押して 着脱します。
- 4. レンズを取りはずすときは、レンズロックレバーを 押しながら、レンズを左に回すとはずせます。
- 5.はずしたレンズにはゴミや汚れが付かないように、 レンズキャップやレンズマウントキャップを取りつ けてください。図のように置くと安定よくなります。
- ※ペンタックスAやMレンズを直接取りつけて使う場合は、フォーカス表示によるマニュアルフォーカス [34ページ]が使えます。また、AFアダプター1.7× [別売]を組合わせると、オートフォーカスが働きます。

※旧製品のタクマーねじマウントレンズはマウントアダプター K (別売)で取りつけられますが、ピント合わせは、ファインダーのマット面で合わせます。

ボディーやレンズのマウント面にレンズ情報接点やAFカプラーがあります。キズをつけたり、汚したりしないでください。汚れたときは、清潔な乾いた布で拭いてください。

7

メインスイッチ・操作レバーとセレクトレバー・シャッターボタン



メインスイッチ

カメラを使うときは、メインスイッチを ON[・・・)] に してください。また、カメラを使わないときは、不用 意にシャッターがきれないように、メインスイッチを OFF[○]にしてください。

●メインスイッチを[๗]マークに合わせると、「ピントが合ったとき」や「セルフタイマー作動中」を電子音「ピーピー」が鳴って知らせます。

操作レバー [MODE/DRIVE・±EF/ISO] とセレクト レバー [▲▼]

モード[MODE]/ドライブ[DRIVE]レバーや±EF/ISO レバーを表示側に押しながら、セレクトレバーをアップ[\blacktriangle]またはダウン[\blacktriangledown]側に押して操作します。また、セレクトレバーは、シャッタースピードのセットにも使用します。[細部については14ページ以後に説明してあります]

モード=各露出モード[プログラム自動露出など] ドライブ=セルフタイマー・シングル撮影・連続撮影 ±EF=露出補正

ISO=フィルム感度

シャッターボタン

メインスイッチをONにして、シャッターボタンを軽く押すと、露出計やピント合わせ[オートフォーカス]のスイッチが入り、表示パネルやファインダー内にセットされた露出表示が出ます。[露出表示後シャッターボタンから指を離しても約10秒間表示を続けます。] さらに押すとシャッターがきれます。

● 裏ぶたが開いた状態で、シャッターをきるとスピードは一定速になります。

LCD表示パネル・ファインダー内表示

LCD表示パネル[説明文中は表示パネルと略します]

- ●シャッタースピード表示は、プログラム・紋り優先 自動露出のとき「2000[1/2000秒]~30"[30秒]」まで、 シャッター優先自動露出・マニュアル露出のとき 「2000~1"」を1段階ごとに表示
- 較り F 値表示は「F1.2~F90」1/2段階ごとに表示
- ●ISO表示は「6~6400」1/3段階ごとに表示
- ●露出補正表示は「+4~-4」0.5段階ごとに表示
- ●フィルムカウンター表示は「0~99」

ファインダー内表示

[] フォーカスフレーム表示

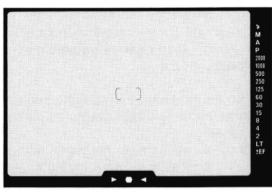
- ▶□◀ フォーカス表示[前ピン・合焦・後ピン]
 - 5 ストロボ充電完了表示[内蔵ストロボのときは、ファインダー横のランプ表示]
 - M マニュアル露出表示
 - A シャッター優先・絞り優先自動露出表示
 - P プログラム自動露出表示

ロングタイム表示

- 2000~2 シャッタースピード表示[2000は1/2000秒、
 - 2は1/2秒を示す]
- ±EF 露出補正表示

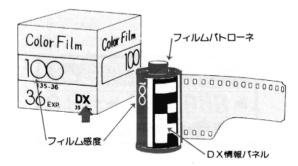
LT





9

使用フィルム[DXフィルム・一般フィルム]

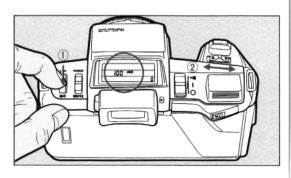


DXフィルム

DXフィルムを使うと、フィルム感度が自動的にカメラにセットされます。

DXフィルムは、バッケージにDXマークまたはフィルム・パトローネにDX情報パネルが表示されていますので確認してください。

- D X フィルムで感度セットできる範囲は、ISO 25~ 5000のものです。この範囲内の感度フィルムをお使いください。
- D X フィルムを入れてから、右の手順で、異なった フィルム感度に変えると、表示パネルのD X マーク が点滅して知らせます。[増感・減感など]



一般フィルム[DXでないフィルム]

DXフィルム以外のフィルムを使う場合は、フィルムの箱に表示されているフィルム感度[ISO]を必ず合わせてください。

ISO側にレバーを押すと、表示パネルにセットされているフィルム感度が表示されます。フィルム感度は、ISOレバーを押しながらセレクトレバーのアップ[▲]・ダウン[▼]レバーを一回押すごとに表示が移動し、押し続けると連続して移動するので希望の数値をセットして止めます。フィルム感度表示はISO6~6400で1/3段階ごとに表示します。

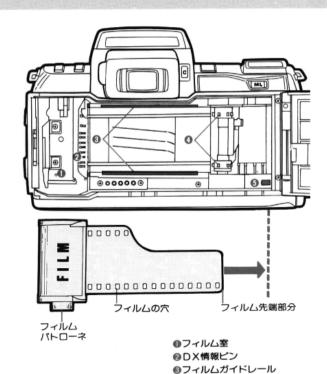
アップ→高感度側[6400]へ移動 ダウン→低感度側[6]へ移動



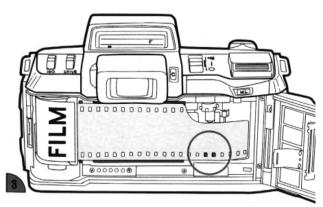
フィルムの出し入れは直射日光を避け、体の陰などで 行なってください。

- 裏ぶたロックボタンを押しながら、開放レバーを下げると裏ぶたが開きます。
- 2.フィルム・パトローネをフィルム室に入れるときは、 カメラ上側を先に入れてから下側を入れると、簡単 に入ります。

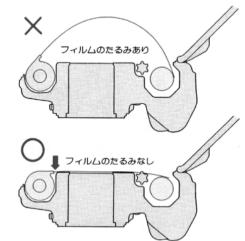
DX情報ピンは、フィルム感度をセットする大切な接点です。曲げたリ・キズや汚れ・ゴミ等を付けないでください。



11

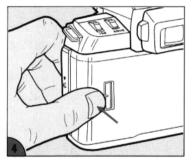


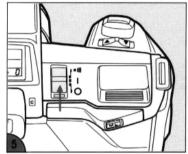
- 3. 図のように、フィルム先端部をボディーのフィルム 先端マークに合わせます。
- ●フィルムはたるみがないように入れてください。
- フィルム先端が極端に折れ曲っているものは、まっすぐに直すか、曲った部分を切取ります。
- フィルムの穴[パーフォレーション]を、○印のよう にスプロケットの歯に合わせます。
- フィルムがフィルムガイドレール[赤線]の間に入っていることを必ず確認してください。

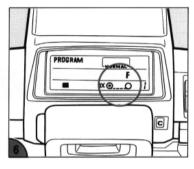


スプロケットの歯

⑤フィルム先端マーク







- 4.図のように、裏ぶたを閉じます。
- ●フィルム情報窓で、ボディーに入っているフィルム の種類が確認できます。
- ●メインスイッチを先にON[|・・・・・]にしておいてから裏 ぶたを閉じても、1枚目まで空送りされます。

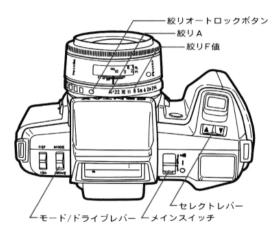
6.フィルムカウンターが1になると自動的に止まり、 上図のように表示されます。

表示パネルのパトローネマークが点灯し、巻上げに 連動してフィルム走行マークと巻取りマークが点滅 します。

表示パネルにパトローネ・フィルム走行・巻取りのマークが出ないときは、フィルムが正しく巻かれていません。裏ぶたを開けて、フィルムを正しく入れ直してください。

13

撮影の基本



Fレンズ・露出モードのセット

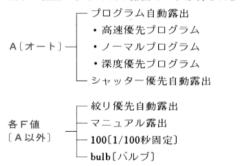
オートロック切換え

左図のレンズの絞りを A [オート]にするときは、絞り オートロックボタンを押しながら、絞り A [緑色]を赤 線指標に合わせると、A ロックされます。

Aから解除するときも、紋リオートロックボタンを押しながら、A以外の各F値へ回します。

● 絞リオートロックボタンは、Aと最小絞り[F22 など]の境を越すときだけ押します。

絞りの位置によって次の露出モードが得られます。



露出モードのセット

露出モードをセットするときは、メインスイッチをON [[・・iii]]にしてください。

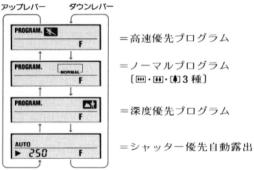
左図のモード/ドライブレバーをモード側に押しながら、セレクトレバーのアップ[▲]またはダウン[▼]レバーを一回押すごとに表示が移動し、押し続けると連続して移動を繰り返します。

[右表は表示パネルの移動を示します]

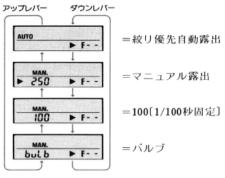
シャッタースピードのセット

シャッター優先自動露出やマニュアル露出では、セレクトレバーを押して、希望のシャッタースピードにセットします。アップ・ダウンレバーは、一回押すごとに表示が移動し、押し続けると連続して移動します。アップは2000[1/2000秒]、ダウンは1"[1秒]の表示でストップします。

絞りがA[オート]のとき



絞りが各F値のとき



15

絞りをAにセットしたときの露出モード

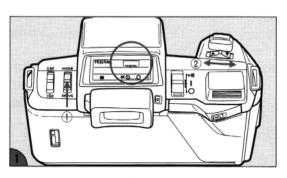
プログラム自動露出モード

- 高速優先プログラム
- ・ノーマルプログラム
- ・深度優先ブログラム
- シャッター優先自動露出モード
- ●使用できるレンズは、SMCペンタックスFおよび Aレンズです。

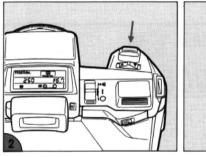
プログラム自動露出

被写体の明るさに応じて絞りとシャッタースピードが同時に変化し、カメラが自動的に適正露出を選びます。わずらわしい露出調節の必要がないので、標準的な撮影やシャッターチャンスに、集中して撮影したいときに最も適したモードです。なお、SFXには3つのプログラムモードがありますので、用途に合わせてお使いください。

プログラム自動露出の使い方

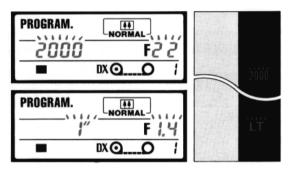


1. プログラム自動露出では、表示パネルにプログラム [PROGRAM]と高速優先[図]・ノーマル[NORMAL]・ 深度優先[四]の3つのモードが順番に表示されます。 モード側に押しながら、アップ・ダウンレバーを押 して希望のプログラムにセットします。





 シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に Pとシャッタースピード、表示パネルに「シャッタ ースピード」と絞り「F値」が表示されます。



ブログラム自動露出警告表示

被写体が明る過ぎたり暗過ぎるときは、ファインダー 内や表示パネルの表示が点滅して警告します。

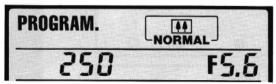
1/30秒以下のシャッタースピード[黄色]になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使っての撮影をおすすめします。

[詳しい警告表示は26ページをご覧ください]

● ノーマルプログラムのときは、F レンズの焦点距離 によって、表示パネルにワイド[画]・標準[画]・テ レ[庫]のいずれかの表示がされます。

17

ノーマルプログラム



ノーマルプログラムは、使用レンズの焦点距離に応じて、ワイド ・ 標準 ・ テレ車を自動的に切換えます。またズームレンズの焦点距離を変えたときも、自動的に切換わります。ズームレンズのマクロ機構を使うときは、自動的にワイド ・ モードになります。

SMCペンタックスAレンズを取りつけた場合は、全て標準町モードになります。

ノーマルブログラムとレンズの焦点距離

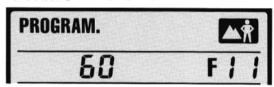
ノーマルプログラム	レンズの焦点距離
ワイド […]	40 mm 未満
標準 [11]	40 mm 以上110 mm 以下
テレ [4]	110mmを超える場合

高速優先プログラム



速いシャッタースピードが得られるようにプログラム されています。動きの速い被写体 [スポーツ・動物写 真等]、またカメラブレの起こりやすい撮影などにお使 いください。

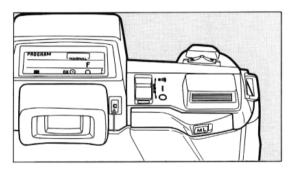
深度優先プログラム



ピントの合う範囲[奥行]が深くなるようにプログラムされています。近景から遠景までシャープに撮影したいときや接写などにお使いください。







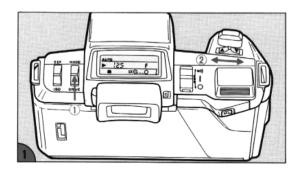
クリアーボタン

クリアーボタンを押すと、露出モードやドライブモード、露出補正などのモードを、即座に下表のような標準モードに切換えられます。

STATE IS	レンズ絞りA位置→ノーマルプログラム
露出モート	レンズ絞りA以外→絞り優先自動露出
ドライブモード	→シングル撮影
露出補正	→±0.0

19

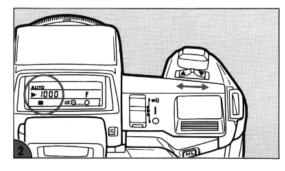
シャッター優先自動露出の使い方



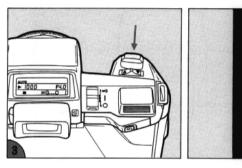
シャッター優先自動露出

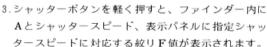
希望のシャッタースピートを先に決めれば、被写体の明るさに応じて絞り下値が自動的に変わり、適正露出が得られます。一般的な撮影をはじめ、スポーツなどの動きの速い被写体に適したモートです。

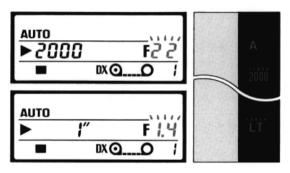
1.シャッター優先自動露出では、表示パネルにオート「AUTO」と「▶シャッタースピード」が表示されます。 他の表示のときは、モード側に押しながら、アップ・ダウンレバーを押してセットします。



- 速いスピードにするときはアップ。遅いスピードにするときはダウンへ押します。
 - 一回押すごとに表示が移動し、押し続けると連続し て移動します。







シャッター優先自動露出警告表示

被写体が明る過ぎたり暗過ぎるときは、ファインダー 内や表示パネルの表示が点滅して警告します。

遅いスピード[LT側]または速いスピード[2000側]に 変えて、点滅表示が消えれば撮影できます。

1/30秒以下のシャッタースピード[黄色]になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使っての撮影をおすすめします。

[詳しい警告表示は26ページをご覧ください]

21

絞りを各F値にセットしたときの露出モード

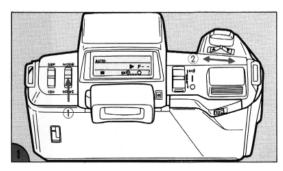
絞り優先自動露出モード マニュアル露出モード 100(1/100秒固定) bulb [バルブ] 100*bulb は51ページ をご覧ください。

●使用できるレンズは、SMCペンタックスFおよび A・M・ペンタックスレンズです。

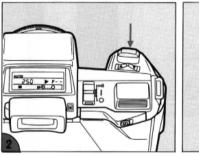
絞り優先自動露出

希望の絞り値を決めると、被写体の明るさに応じてシャッタースピードが自動的に変わって適正露出が得られます。絞り効果を無視できない風景やボートレート・接写など、被写界深度を重視するときに適した撮影モードです。

絞り優先自動露出の使い方

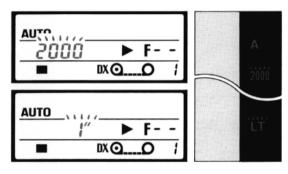


1. 絞り優先自動露出では、表示パネルにオート「AUTO」 と「▶ F - -」が表示されます。他の表示のときは、 モード側に押しながら、アップ・ダウンレバーを押 してセットします。





 シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に Aとシャッタースピード、表示パネルにシャッター スピードが表示されます。



絞り優先自動露出警告表示

被写体が明る過ぎたり暗過ぎるときは、ファインダー 内や表示パネルの表示が点滅して警告します。

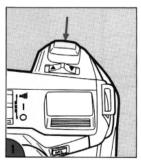
小紋り側[F22など]または開放側[F1.4など]に変えて、 点滅表示が消えれば撮影できます。

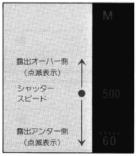
1/30秒以下のシャッタースピード[黄色]になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使っての撮影をおすすめします。

[詳しい警告表示は26ページをご覧ください]

23

マニュアル露出の使い方

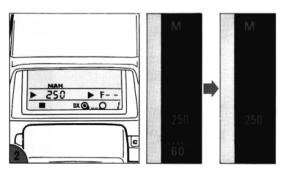




マニュアル露出モード

露出計の指示に従って、シャッタースピードや絞り値を調節すれば、適正露出が得られます。また、撮影者の作画意図や目的に合わせて[露出オーバー・アンダー] 撮影することもできます。

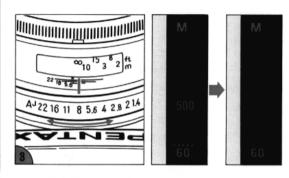
マニュアル露出では、表示パネルにマニュアル「MAN.」と「▶シャッタースピード」「▶ F - - 」が表示されます。他の表示のときは、モード側に押しながらアップ・ダウンレバーを押してセットします。



1.シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に Mとシャッタースピードが表示されます。上図のように、点灯および点滅が同時に表示したときは、露 出が合っていないときです。シャッタースピードまたは絞りを調節して、点滅が消えて点灯表示だけに なるようにしてください。

2. シャッタースピードを先に決めた場合

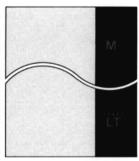
レンズの絞りリングを回してスピードの表示を点滅 →点灯の位置に合わせると、適正露出になります。 絞りリングを回しても適正露出にならないときは、 シャッタースピードを合わせ直してください。



3. 絞り値を先に決めた場合

アップ・ダウンレバーでスピードの表示を点灯→点減の位置に合わせると、適正露出になります。シャッタースピードを変えても、適正露出にならないときは、絞り値を合わせ直してください。





マニュアル露出警告表示

被写体が明る過ぎたり暗過ぎるときは、ファインダー 内の表示が点滅して警告します。

小紋り側[\mathbf{F} 22など]または開放側[\mathbf{F} 1.4など]に変えて、 点滅表示が消えれば撮影できます。

1/30秒以下のシャッタースピード[黄色]になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使っての撮影をおすすめします。

[詳しい警告表示は26ページをご覧ください]

25

ファインダー内およびLCD表示パネルの露出警告表示

ファインダー内表示	表示パネル	内容	
P 2000	2000 F 22	プログラム自動露出での「測光範囲外」です。そのまま 撮影すると、適正露出は得られません。	
P LT	1" F1.4		
A 2000	F 22	シャッター優先自動露出ての「測光範囲外」または「連動範囲外」です。 「運動範囲外」は、シャッタースピードを変えれば撮影できます。	
A LT	F1.4	「湯光範囲外」は、シャッタースピードを変えても点漢 が消えません。そのまま撮影すると適正露出は得られ ません。	
A 2000	2000	級り優先自動露出での「測光範囲外」まだは「連動範囲 外」です。 「連動範囲外」は、級り値を変えれば撮影できます。	
A LT	30″	「測光範囲外」は、絞り値を変えても点滅が消えませ そのまま撮影すると適正露出は得られません。	
M 500 125		マニュアル霧出ての「適正霧出外」です。シャッタース ビードや絞り値を変えて、点滅が消えてスピード表示 がひとつになれば撮影できます。	
M 250 60			
M 2000		マニュアル露出での「測光範囲外」は、シャッタースヒードや級り値を変えても点滅が消えません。そのまま 撮影すると適正露出は得られません。	
M LT		東於今のC-題正磐田は何り(はせん)	
P 250		メモリーロック使用中は、ファインダー内の点滅表示 で知らせます。	
P 60		バッテリー警告表示 カメラの電池が消耗して容量が少なくなったことを点 滅で知らせます。	

- ●警告表示はファインダー内および 表示パネルの点滅表示によって知 らせます。
- ●測光範囲外とは、被写体の明るさが極端に明るいか暗いため、カメラの露出計が働く範囲を越えている場合です。
- •連動範囲外とは、測光範囲内でも シャッタースピードと絞り値との 組合わせが使用限界を越えている 場合です。
- 測光/連動範囲は38ページをご覧ください。

※測光範囲外

- 測光範囲外になったときの撮影方法
- 被写体が明るいときは市販のND フィルターをご利用ください。
- ●被写体が暗いときは、ストロボか 他の照明光が必要です。

SFXカメラと各種ペンタックスレンズを組合わせたときの機能

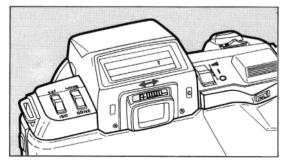
SFX	露出モード		フォーカスモード			
機能	プログラム自動露出 シャッター優先自動露出	絞り優先自動露出 マニュアル電出	オートフォーカス (AFシングル・AFサーボ)		マニュアルフォーカス	
交換レンズ			AFアダプター1. を組合わせたとき		フォーカス表示 マット面合われ	
ペンタックストレンズ	0	0	0		0	0
ペンタックスAレンズ	0	0	×	0*	O*	0
ペンタックスMレンズ	×	0	×	*	0*	0
ペンタックスレンズ	×	0	×	0*	0*	0
タクマーレンズ	×	O*	×	×	×	0

- ※レンズには、下記の使用制限があります。
- ●マニュアルフォーカスのフォーカス表示によって使 う場合は、レンズの開放F値がF5.6を含めてそれ以 上の明るいレンズが使用できます。
- AFアダプター1.7×と組合わせて使う場合は、レンズの開放F値が F2.8以上の明るいレンズが使用できます。[詳しくはAFアダプター1.7×の説明書をご覧ください。]
- 米絞り込み測光

- ●フォーカス表示[FI=フォーカスインジケーション]は、表示と音によって合焦を知らせます。
 - **F**レンズ以外は、フォーカスモードレバーがどの位置でも、マニュアルフォーカスにセットされます。
- 「マット面合わせ」は、フォーカス表示に関係なく周辺でピント合わせができます。なお、タクマーレンズでは、フォーカス表示は出ません。

27

視度調節レバー・アイカップF

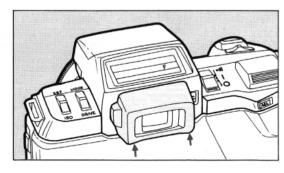


視度調節レバー

視度が合っていないとファインダー像がはっきり見えません。視度は確実に調節してください。

視度調整は、カメラを明るい方に向け、ピントは合わせない状態で視度調節レバーを左右に動かして、ファインダー中央のフォーカスフレームの線が最もはっきり見えるところで止めます。

視度調節範囲は、 $+1.5\sim-1.5D$ [ディオプトリー]です。



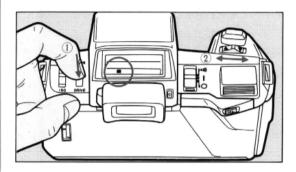
アイカップF

アイカップFは、カメラのアクセサリー取りつけ溝に 差し込んで使用します。

カメラの視度調節や別売りのマグニファイヤーFを取りつけるときなどは、アイカップFは、左右[矢印]の縁を押し上げて、取りはずしてください。

●別売りの視度調整レンズMも使用できます。

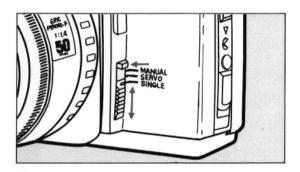
●別売りの視度調整レンズなどのアクセサリーを取り つけると、アイカップFは使用できません。



ドライブ[DRIVE]モード

図のように、ドライブ側に押しながらアップ・ダウンレバーを押して、希望のモード表示をセットします。 アップ・ダウンレバーを押し続けると連続して表示移動を繰返します。

- ○=セルフタイマー撮影[50ページをご覧ください]
- ■=シングル撮影 シャッターボタンを押すとシャッターがきれ、巻上げられて停止します。
- ■=連続撮影 シャッターボタンを押している間は連続撮影[約1.8コマ/秒]。



オートフォーカス

●AFシングル[SINGLE]

ピントが合うまでレンズが作動し、ピントが合うと シャッターをきることができます。

②AFサーボ[SERVO]

被写体が動けば、ピントが合うように追い続けます。 シャッターはピント合わせに関係なくきれます。

マニュアルフォーカス

③マニュアル(MANUAL)

ボタンを押しながらフォーカスモードレバーを押し上げます。フォーカス表示によりマニュアル[手動] でピントが合わせられます。

29

ピントの合わせ方[オートフォーカス]





- 1. ピントを合わせたいものに、ファインダー中央のフォーカスフレーム[\Box]を合わせます。
- 2.シャッターボタンを軽く押します。ファインダー内の[○]表示[緑色]が点灯すれば撮影できます。メインスイッチが[・III]のときは、ピントが合うと電子音[ピーピー]が知らせます。
- Fズームレンズでは、ズームリングを回し、お好み の構図に決めて撮影ができます。
- ●オートフォーカス作動中は、距離リングに手をかけ たり、回転を妨げたりしないでください。

フォーカス表示	内容
○ 〔緑色点灯〕	合焦表示 ビントガ合つた撮影ができます。
•	ピント合わせができないときです。同じ被写体の明るい 部分に合わせ直すと合集する場合があります。「オートフ オーカスの苦手な被写体」33ページをごらいください。
〔赤色点滅〕	暗い場合では、ストロボ撮影をご利用ください。
▼ (赤色点灯)	撮影距離が近いためピントが合いません。もう少し離れ てください。
>	Fスームレンズのマクロ(MACRO) のときに、点滅表示します。 ▶ = 撮影距離が近いためピントが合いません。
〔赤色点滅〕	◀=撮影距離が遠いためピントが合いません。

AFシングル撮影

- ピントが合うまでシャッターがきれません。
- シャッターボタンを軽く押し、[○]表示が点灯している間は、ピントも固定されています。[フォーカスロック撮影は32ページをご覧ください。] ピントを合わせてから撮影方向を変えるときは、もう一度シャッターボタンを押し直します。
- シャッターボタンを急に押し込んだ場合は、ピントが合ってからシャッターがきれます。
- KA・Kマウントレンズを使って、被写体が来る位置にあらかじめピントを合わせ、シャッターボタンを押したままにすると、ピントの合った瞬間にシャッターがきれる「スナップインフォーカス撮影」ができます。

AFサーボ撮影

- ●ピント合わせに関係なくシャッターがきれます。シャッターボタンを軽く押していればピント合わせが連続して行なわれ、動く被写体は追い続けます。
- [○]表示が点灯したときにシャッターをきると、ピントが合った写真になります。





カメラの構え方

撮影するときは、カメラの構え方が大切です。シャッターボタンは息を止めて静かに押します。[強く押すとカメラぶれしやすくなります。]

木や建物・テーブルなどを利用して、からだやカメラ を安定させるのは良い方法です。

スローシャッターや超望遠レンズを使用するときは、 三脚とケーブルスイッチFを使用してください。

31

フォーカスロックの使い方







こんなときは注意!

このまま撮影すると、写真のように人物にはピントが 合わず、後方に合ってしまいます。

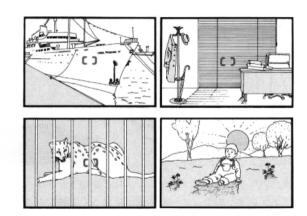
ピントを合わせたいものがファインダー中央のフォーカスフレーム[□]からはずれているときは、次の説明順序のようにフォーカスロックを利用して撮影してください。なお、フォーカスロック撮影を行なうときは、フォーカスモードはAFシングルでお使いください。

- 1.ピントを合わせたいものに、フォーカスフレーム[1] を合わせてから、シャッターボタンを軽く押してピントを合わせます。[0]表示の点灯や電子音[ピーピー]を確認してください。
- 2.シャッターボタンをそのまま軽く押した状態で、写したい構図に移動させてシャッターをきります。
- ●シャッターボタンを軽く押し、[○]表示が点灯している間はフォーカスロックされ、指を離すと解除します。何回でも繰り返すことができます。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカス機構は高精度のものですが、万能ではないため被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによっては、ビントが合わないことがあります。このような場合は、フォーカスロック撮影やマニュアルフォーカス撮影、また、暗い場所では内蔵ストロボを利用してお使いください。

- ●白壁などコントラスト[明暗差]の非常に低い被写体。
- ・赤外線を反射しにくい被写体。「真黒いものなど」
- 非常に速いスピードの被写体。
- 横線のみの被写体。細かい模様の被写体。
- 遠・近の物がフォーカスフレームの中で混在する。
- 反射の強い光、強い逆光、周辺が特に明るい被写体。



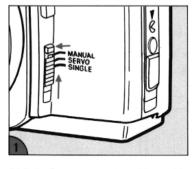
アクセサリーの注意

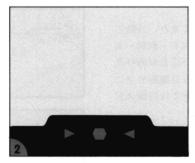
下記のアクセサリーでは、オートフォーカスやフォーカス表示による撮影ができません。マット面でピントを合わせて撮影してください。

- 特殊フィルターやマジックイメージアタッチメント・ステレオアダプターなどを使ったとき。
- ●SFXはミラーにハーフミラーを使っているため、 一般用偏光フィルターは使えません。円偏光フィルターをお使いください。
- ●接写リングやオートベローズを使った拡大接写。

33

ピントの合わせ方[マニュアルフォーカス]







従来のベンタックスA・Mレンズなどを使うときは、 ファインダー内のフォーカス表示に従って手動による ピント合わせができます。なお、Fレンズでも、オートフォーカスを使わないときは同じ操作になります。

フォーカス表示で使用できるレンズ

• F レンズ $\{K_{AF}$ マウント $\}$ 、A レンズ $\{K_{A}$ マウント $\}$ M レンズ・ペンタックスレンズ $\{K_{A}$ マウント $\}$ 以上のレンズで、開放F 値がF 5.6 以上の明るいレンズが使用できます。

- 1.マニュアルフォーカスにセットします。
- 2. シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内のフォーカス表示[▶○◀]のいずれかが表示します。
- 3.フォーカス表示の▶[右へ]または◀[左へ]の指示方向にレンズの距離リングを回します。[○]表示[緑色]が点灯すれば撮影できます。メインスイッチが、[*□]のときは、電子音[ピーピー]が知らせます。

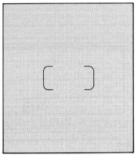
フォーカス表示

- ▶ 距離リングを右側へ回します[前ピン表示]
- ▲ 距離リングを左側へ回します[後ピン表示]
- O ピントが合っている[合焦表示]
- ▲ピント合わせができないときです。

フォーカス表示が利用できるレンズは、開放 F値が F 5.6以上の明るいレンズです。1000mm F 8などの暗いレンズを使用した場合でも、コントラストのある被写体ではフォーカス表示[○]が出ることもありますが、精度が劣ります。このようなレンズでは、マット面を使用してピントを合わせてください。

※ベローズ100mm F 4・シフト28mm F 3.5[シフト時]・ レフタイプレンズは使用できません。これらのレン ズはマット面でピント合わせをします。





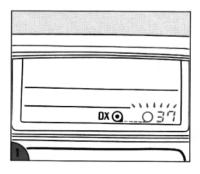
マット面によるピント合わせ

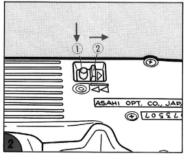
オートフォーカスの苦手な被写体や測距ができないとき、また、旧タイプのタクマーレンズにマウントアダプター K [別売]を取りつけて使うときなどは、ファインダー内のマット面によってピントを合わせます。

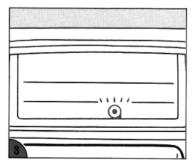
- ●マニュアルフォーカスにセットします。
- ●レンズの距離リングを回し、写したいものがはっき リ見えるところで止め、撮影します。

35

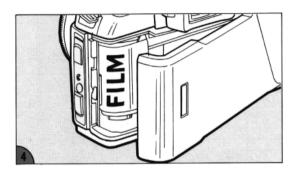
フィルムの巻戻し方[フィルムは直射日光が当たらないところで取出しましょう。]







- フィルムの最後まで撮り終わるとモーターは自動的に 止まりますが、まだ裏ぶたを開けないでください。撮 影したフィルムはパトローネに巻戻してから、裏ぶた を開いて取出します。
- 1. フィルムの最後まで撮り終わると、表示パネルのフィルム走行・巻取りマークやフィルムカウンターが 点滅して知らせます。
- 2.カメラ底部●の巻戻しボタンを押し込みながら、②の巻戻しレバーを矢印方向に止まるまで動かすと、自動的にモーターが動いて巻戻しが始まります。動きだしたら指を離しても大丈夫です。
- 3. 巻戻し中は、フィルム走行マークが点滅します。 巻戻しが完了すると空シャッターが1回きれてモー ターは止まり、パトローネマークが点滅して知らせ ます。

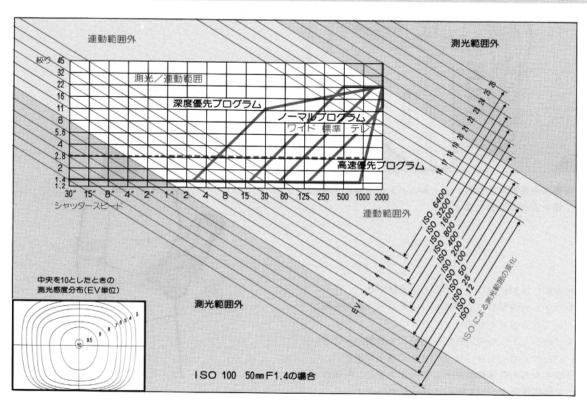


- 4. 裏ぶたを開けてから、フィルムパトローネの下側に 指をかけて取出します。
- ●巻戻しは24枚撮りフィルムで約20秒です。
- ●フィルム巻戻し完了のパトローネマーク点滅を確認してから裏ぶたを開けてください。
- ●使用フィルムの規定枚数を確認してお使いください。 フィルムカウンターは 0~99まで表示します。
- ●フィルムの規定枚数以上の撮影をすると、最後のコマは現像所でカットされる場合があります。



37

プログラム線図・測光連動範囲



プログラム線図

SFXのプログラム自動露出は、ノーマルプログラム・ 高速優先プログラム・深度優先プログラムの3種類が あります。左図のように、太実線はシャッタースピー ドと絞り値を組合わせたときの変化を示しています。 なお、使用レンズの開放F値により、そのレンズの明 るさ限界まではシャッタースピードと絞り値の組合わ せで変化します[F2.8レンズでは、図の赤点線のよう になります〕

ノーマルプログラムは、使用レンズの焦点距離によっ て、ワイド・標準・テレのプログラムを自動的に切換 えます

高速優先プログラムは、速いシャッタースピードが得 られるようにプログラムされています。

プログラム線図両端の細い赤実線や細い赤点線は、開 放絞り・最小絞りの異なるレンズを使ったとき、また はフィルム感度[ISO]を変えたときのものです。

レンズの絞り F値[F1.4~F22]の範囲が変わると、測 光範囲の限界が変化します。

測光範囲とは、露出計の働く明るさの上限~下限をい います。連動範囲は、測光範囲内でシャッタースピー ドと絞り値の組合わせ可能範囲をいいます。

例えば、ISO 100で50mm F1.4標準レンズを使用した ときの測光範囲は、EV1[F1.4·1秒]~EV20[F22· 1/2000秒]です。

フィルム感度[ISO]が変わると測光範囲が変わります。 左図の左右傾斜線がISOの変化に従って平行移動しま す。枠の中が測光/連動範囲です。

E.V. [Exposure Value]

EVとは、被写体の明るさを表わす数値で、暗い所は 低く、明るい所は高い数字です。

39

SFXにはTTLオートストロボが内蔵されています。暗 い場所で、オートフォーカス撮影が働かない場合、ま た、ストロボ撮影をしたい場合は、内蔵ストロボの撮 影に切換えてください。

プログラム自動露出なら日中の木陰や薄暗い所で人物 撮影をするときも、ストロボを補助光として「日中シ ンクロ」撮影ができます。

ガイドナンバー…14[ISO 100、m]

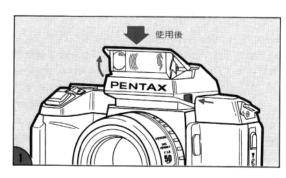
使用レンズ……35mm~210mm[マクロ100mmを除く]

充電時間……約3秒[6Vリチウムパック電池]

撮影範囲……約0.6~5m[ISO 100]

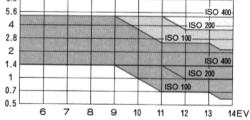
使用フィルム感度……ISO25~400

内蔵ストロボの使い方

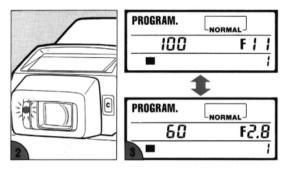


1. ストロポスイッチを押すと、ストロボがスイングア ップして充電を始めます。使用後は押し戻します。 [充電中は、シャッターボタンから指を離します。]

プログラム・ストロボの撮影範囲目安 (m) ISO 200



上図は、F2.8およびそれより明るいレンズのプログラムストロボ線図、 暗いレンズ、例えばF4では1段(1ます)ずつ下がります。



- 2.内蔵ストロボの充電完了は、ファインダー窓の左横 「アイカップF内」の赤ランプ点灯で確認できます。
- 3. レンズの絞りがAのとき[プログラム自動露出など] は、被写体の明るさに応じてストロボ同調スピード [1/60・1/100秒]と絞り値[F2.8~F11・ISO 100] が変化するので日中シンクロ撮影が簡単にできます。シャッターボタンを軽く押すと表示パネルにストロボ同調スピートと絞り値が表示されます。ファインダー内には露出モード表示[P·A]と60は出ますが、
 - 5マークと100は出ません。

- ●レンズの絞りが各下値にセットされたときは、絞り値によって撮影範囲が変化します。(ガイドNo.14÷F4=3.5m)ストロボ同調スピードは1/100秒になります。
- ●開放 F値が F 2.8より暗いレンズでは、その開放 F値から表示します。
- Fおよび A レンズで、プログラム・ストロボ撮影が できます。広角や太いレンズは、ストロボ光がレン ズで遮られる場合がありますのでご注意ください。
- ●ストロボ光が遮られるFレンズ [ズーム・望遠・マクロ] では、充電完了表示の赤ランプが点滅警告します。このときは、セットした露出でシャッターはきれますが、ストロボは発光しません。
- ●レンズフードは使わないでください。また、35mmの 広角では、1 m以内の近距離になると、ストロボ光 が遮られるので使わないでください。
- ●暗い所で人物を正面からストロボ撮影すると、3m 以上では眼の網膜の反射光で赤眼現象になることがあります。[視線をストロボからはずすと防げます]

撮影できるフィルム本数

フィルム本数	6Vリチウムバック	単3形アルカリ乾電池
24枚振り	* 525~30	¥ ∑20

ストロボ撮影と一般撮影の使用率を50%づつとしたとき

41

AFスポットビーム

暗い所で内蔵ストロボを使うと、AFスポットビーム [近赤外光]が自動発光して、オートフォーカスを働か せます。

薄暗くてオートフォーカス精度が落ちるときは、この スポットビームだけを使うこともできます。

- ■スポットビームは、フォーカスモードがAFシングルのときのみ働きます。
- スポットビームの有効距離は約1~4mです。ストロボを使わないときは、ピントを合わせた後に押し下げてください。
- ●明るい被写体では、スポットビームは働きません。
- ▶ ◀表示のときは、ピント合わせができないときです。[33~35ページをご覧ください]
- AF 400FTZのAFスポットビームを使うときは、内 藤のAFスポットビームは働かなくなります。

ペンタックス・専用オートストロボの使い方

カメラ側が自動露出モードやマニュアル露出になって いればいつでも専用オートストロボが使えます。

ストロボ撮影の手順

- カメラのホットシューカバーをはずして、ストロボを取りつけます。
- 2.ストロボのモードをTTLオートまたは外光オートに 合わせます。
- 3.ストロボの電源スイッチを入れます。
- 4.ストロボの充電完了は、ストロボ側で充電完了ランプが点灯するほかに、シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内では 5マーク点灯によって判り、表示パネルではストロボ同調のシャッタースピード表示で判ります。

[内蔵ストロボの充電完了の表示方法は少し異なります。]

- ■露出計のタイマースイッチがOFFになると、5 マーク とシャッタースピード表示も消えます。
- ●SFXには、右表のように豊富な機能をもった、専用 ストロボAF400FTZをご利用ください。

SFXの機能	SFX 内蔵ストロボ	AF400FTZ	AF400T AF200T AF280T AF080C	AF200SA *AF200S AF140 *AF160
ストロボの充電完了時、シャッターボタンを軽く押すとファインダー内には・マークが、表示バネルにはシャッタースピードが自動的に右の同調スピードに切換わって表示。	○* (60·100)	O (60·100)	O (100)	O (100)
絞りを A にロックしているときは、必要な絞り値は自動的にセットされます。	0	0	0	☆
オートストロボガ正常に働いたときは、ファインダー内の りマークが発光直後に一瞬消えて再点灯、または点滅表示。		0	0	
ストロボの発光量は、撮影中のフィルム面光量を測定しながら自動的に調節。(TTLオートストロボ)	0	0	0	
マニュアル露出のときは、1/100秒以下の低速シンクロ撮影可能。	0	0	0	0
暗い所ではAFスポットビームの発光機能。	0	0		
先幕・後幕シンクロ撮影の切換え可能。		0		

- ●AF140や旧タイプのAF160・AF200Sの絞りは各F値 にセットして使用してください。
- ■ストロボが不要な程度に明るい所では、オートストロボに切換わっていてもストロボが発光しないこともあります。
- * は充電完了時、ファインダー左横の赤ランプ点灯。
- ◆ AF200SAは自動セットされます。

TTLオートストロボ

ペンタックス専用TTLオートストロボを使ったときは、レンズを通してフィルム面に当たる光の反射を直接測光し、適正露出となるように、測光回路がストロボの発光量を自動的に調節します。被写体がらの反射光だけを測るため、正確な露出が得られます。

43

TTLオート・外光オートストロボの使い方

TTLオートストロボの使い方

プログラム自動露出やシャッター優先自動露出のとき

● SFX専用のAF400FTZは、内蔵ストロボと同様、 被写体の明るさに応じてシャッタースピードや絞り 値が自動的に切換わるので、日中シンクロ撮影も簡 単にできます。

詳しくは、AF400FTZの説明書をご覧ください。

- ●従来のAF200T・AF280T・AF400T・AF080Cでは、充電完了と同時に、1/100秒と絞りF4[ISO 100] に切換わります。[AF080CはF8・ISO 100]
 日中シンクロ撮影には、おすすめできません。
- **開放値が変化するズームレンズ[F3.5~F4.5]は、 ズーミングによって絞り値表示[F4・ISO 100]の 点滅警告[連動範囲外]が出ることがあります。その まま撮影すると露出不足になりますのでご注意くだ さい。

絞り優先自動露出やマニュアル露出のとき

- ●レンズの絞りを、希望の絞り値に合わせます。
- 充電完了と同時に、1/100秒に切換わります。

外光オートストロボの使い方

プログラム自動露出やシャッター優先自動露出のとき

- ◆ AF200 S_A、AF200T、AF280T、AF400Tなどは、スイッチをオート[赤・緑・黄]位置に合わせます。
- 充電完了と同時に、1/100秒と絞りは下表のように切換わります。

ISO 100のとき

[AF200SAは ISO 100のときF4]

	130 1000023					
	AF200T	AF280T	AF400T			
赤	F2.8	F4	F4			
緑	F5.6	F8	F8			
黄	_	_	F11			

※上表のようにISO 100でAF280Tの赤を使うと自動的にF4になります。開放F値が変化するズームレンズ[F3.5~F4.5]は、ズーミングによって絞り値表示の点滅警告[運動範囲外]が出ることがあります。そのまま撮影すると露出不足になりますのでご注意ください。

絞り優先自動露出やマニュアル露出のとき

- ●ストロボのオート[赤・緑・黄]に合わせます。
- ●レンズの絞りをオートストロボの計算盤で指定する 絞り値に合わせます。
- 充電完了と同時に、1/100秒に自動的に切換わります。

TTLオートストロボと外光オートストロボの共通な使い方カメラのマニュアル露出では、シャッタースピードを1/60秒~1秒の範囲内にセットすると、低速シンクロ撮影ができます。シャッタースピードのセットは、アップ・ダウンレバーで表示パネルに希望のスピードを選びます。

シャッタースピードが 1/2000~1/125 秒にセットしているときは、充電完了と同時に、1/100秒に切換わります。

オートチェック表示「釒」

カメラ側が各自動露出や、マニュアル露出で、TTLおよび外光オートストロボが適正な発光をすると、ファインダー内のサマークが、ストロボ発光後一瞬消えて再点灯または点滅して、ストロボ撮影の完了を知らせます。

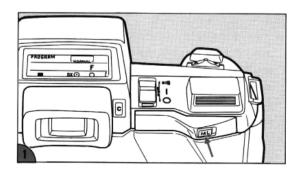
 $AF200S_A$ には、オートチェック機能はありません。

専用ストロボ使用上の注意

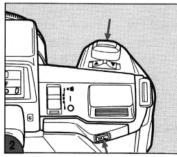
- ●ストロボのMS[マニュアルシンクロ]、M[マニュアル]では、絞りは各絞りF値で使用してください。 絞りをAにしたときは、適正露出が得られません。 また、ストロボの種類によっては、MS、Mの機能 が異なる場合がありますので、使用ストロボの使用 説明書をごらんください。
- ●TTLオートや外光オートストロボで、増灯撮影をするときは、内蔵ストロボとペンタックス専用ストロボを組合わせて増灯撮影ができます。ストロボ機能はホットシューに取りつけたストロボが優先します。撮影のときは、各ストロボの充電完了を確認して行なってください。
- 100[1/100秒固定]やbulb[バルブ]使用でも、TTLオートおよび外光オートストロボの撮影は可能です。

45

メモリーロック



メモリーロックは、自動露出モードにおいて撮影前の露出値をカメラへ一時的に記憶させる機構です。 逆光や背景に明るい空などが多く入るような状態での 撮影、あるいは逆に背景が暗いときの撮影にご利用く ださい。





人物の顔などをファインダーいっぱいに入れて、メモリーロックボタン[ML]を押している間ロックが働きます。

メモリーロック中は、ファインダー内の露出表示が 速い点滅で知らせます。

2. メモリーロック中にシャッターボタンを軽く押し続けると、そのままロックは継続されます。

メモリーロック使用



3.メモリーロックを使って希望の構図に戻して撮影す れば、人物が適正露出になります。 シャッターをきると記憶は解除されます。

メモリーロックなし

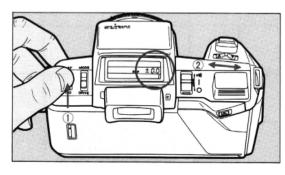


ご注意

●マニュアル露出でも、メモリーロックボタンを押す と、ファインダー内のスピード表示はロックされ、 表示が点滅します。

47

露出補正



露出補正は、自動露出モードで撮影するとき、基準露 出を補正したり、意図的に露出をオーバーやアンダー にしたい場合に使用します。

露出補正をするときは、±EF[露出補正]側にレバー を押しながら、アップ・ダウンレバーを押して希望の 補正値にします。

撮影例	露出補正量
逆光撮影	
空の多く入った風景撮影	約+1~+3.5
雪上の人物撮影	
空が背景に入った人物撮影	
背景が暗い撮影	
舞台撮影・夜景	₩ 0-1~-3.5

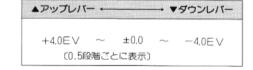




調整範囲は、+4~-4の0.5段階ごとに行なえます。 露出補正中は、表示パネルの±EFが点滅表示します。 また、シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー 内の±EFが点灯表示します。

使用後は忘れないうちに±0.0に戻してください。

- クリアーボタン[C]を押すと、露出補正値は± 0.0 に戻ります。
- TTLオート、外光オートストロボ撮影のときも露出 補正が働きます。
- ●マニュアル露出のときは、適正露出表示にしたのち、 シャッタースピードや絞り値を変えた方が便利です。







±0.0

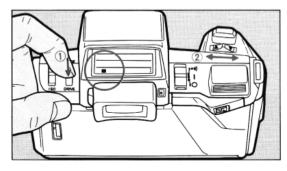


-2.0



49

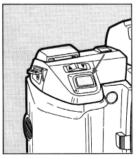
セルフタイマーの使い方



セルフタイマーは撮影者も入って撮影したいときに使 います。

ドライブ側に押しながら、アップ・ダウンレバーを押 してセルフタイマーマーク[©]にセットします。写し たいものにピントを合わせてから、シャッターボタン を押すと、約12秒後にシャッターがきれます。

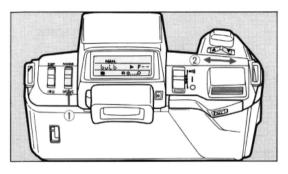
● メインスイッチを[*リ]マークに合わせておくと、セ ルフタイマーの作動中をセルフタイマーランプと電 子音で知らせます。シャッターがきれる2秒前から、 ランプは点滅に変わり、電子音も速い断続音 [ピピ ピ] になります。



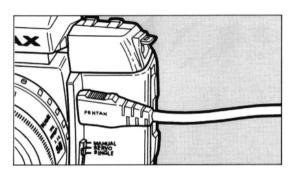


- ●表示パネルのセルフカウンターは、作動時間の12秒 から減算表示します。
- セルフタイマーの作動後に解除したいときは、メイ ンスイッチをOFFにします。
- bulb [バルブ]撮影のときは、セルフタイマーは使え ません。

ファインダー窓から目を離して自動露出で使うと きはファインダー窓から入る光のために露出不足 になることがあります。セルフタイマーを使うと きは、ホットシューカバーを取りはずして、アイ カップFの内側にはめ込んでください。



モード側に押しながら、アップ・ダウンレバーを押して bulb [バルプ] または100[1/100秒] 表示にセットします。シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内にMが表示します。



●新品の6Vリチウム電池や単3形アルカリ乾電池[常温]で、約7時間の長時間露出[タイム]ができます。

bulbの使い方

長時間露出のとき使います。花火・夜景などの撮影に ご利用ください。シャッターボタンを押している間だ けシャッターが開いています。

●バルブで撮影するときは、しっかりした三脚を使用し、図のように別売りのケーブルスイッチ \mathbf{F} [レリーズロック付]をカメラのレリーズソケット \mathbf{F} に差し込んでご使用ください。

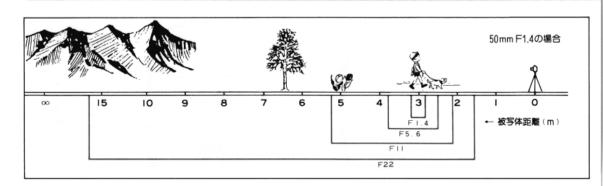
100[1/100秒]の使い方

クリップオン型一般ストロボを使うときに利用します。 シャッタースピードは1/100秒に固定されます。

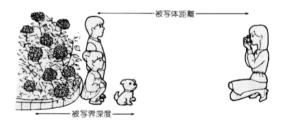
●クリップオン型の一般ストロボ撮影をするときは、 使用フィルム感度や撮影距離またはストロボの設定 絞り値に応じてレンズのF値をセットしなくてはな りません。[ストロボの説明書をごらんください]

51

被写界深度



被写体の、ある部分にピントを合わせると、その前後 にもピントが合う範囲があり、この範囲を被写界深度 といいます。



被写界深度は絞り込むほど[小紋り]、焦点距離は短いレンズほど、また、被写体が遠くなるほど深くなります。紋りを変えることによってピントの合う範囲[奥行]が変わりますから、写真の効果を変えることができます。

右ページ図(F1.4,F22)のように、レンズの被写界深度目盛によって、ピントの合う範囲をある程度知ることができます。

ズームレンズの被写界深度目盛は機構的に入っていないものもあります。

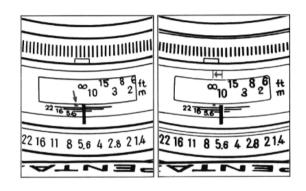
赤外線指標の使い方





AJ 22 16 11 8 5.6

₩0 F22(1.67~16.88m) 絞り F1.4(2.85~3.16m) NATURAL DE LA CONTRACTOR DEL CONTRACTOR DE LA CONTRACTOR ∞₁₀15 6 2 1.5 10 3 ່າ



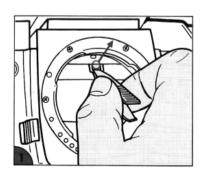
赤外線フィルムとR2やO2のフィルターを使用して 赤外線写真を撮影するときは、一般撮影[可視光]とピ ント位置が異なるため、ピント補正が必要です。 左図のように、ファインダーでピントを合わせたとき の距離目盛を読取り、レンズの距離リングを回し、右 図のように赤外線指標[赤線]に合わせてから撮影しま す。「露出はフィルムの説明書をご覧ください。」

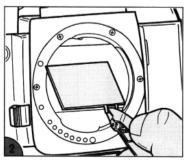
●レンズの距離リングを回すときは、フォーカスモー ドをマニュアルにしてください。

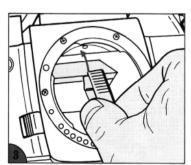
53

交換フォーカシングスクリーン

5.6 4 2.8 2 1.4







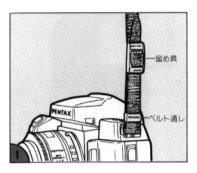
フォーカシングスクリーン[FSと略す]は、標準装備 スクリーンのほか下記の2種別[別売]が発売予定です。 FSの着脱交換は各FSに付属しているピンセットで 簡単に行なえます。

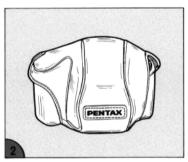
①十字線マット(FD-41) 顕微鏡・超接写撮影用

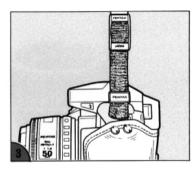
②方眼マット(FG-40) 復写・一般撮影用

- 1.図のように○印の裏側の押さえ板を手前→に引くと FSが枠ごと下がります。
- 2. FSのつまみをピンセットではさんで取出し、ケー スの溝に立てます。
- 3. 交換するFSをピンセットで枠にのせ、図のように 押し上げるとカチット音がして固定されます。

FSはプラスチック製です。取扱いはていねいにして ください。また、清掃はブロワーでゴミを吹き払うだ けにしてください。







- 1.図のように、カメラの吊り金具へストラップを通し て、ベルト涌し→留め具の順に通します。なお、ス トラップ先端部は留め具の内側でも外側でも大丈夫 です。
- 2.ソフトケースは、バックケース[底ぶた]とフロント ケース[前ぶた]がホックで組合わせられています。
- 3. フロントケースを開いてカメラをバックケースに入 れます。バックケースのフックを吊り金具にひっか けると固定されます。
- ●SFX用ソフトケース[別売]は、バックケースとフロ ントケース[SとLの2種類]が用意されてます。
 - S = 標準 レンズ用[ズーム35~70 mm レンズなど] $L = \vec{x} - \Delta \nu \vec{x}$ 用 $[70 \sim 210 \text{ mm} \nu \vec{x}$ など]
- ●データバックF用のバックケース[別売]も用意され ておりますのでご利用ください。

55

アクセサリー[AFアダプター1.7×]

AやMレンズを使うとき、間に入れるとオートフォー カス撮影ができるアダプターです。使用できるレンズ は、開放 F値がF2.8以上の明るいレンズで焦点距離が 1.7倍に拡大されます。なお、撮影距離範囲[最短距離 等〕が変わったり、組合わせできないレンズがありま すので、詳しくはAFアダプター1.7×の説明書をご覧 ください。

リアコンバーターとしての使用はおすすめしません。

- SMCペンタックスA[K_Aマウント]
- ●SMCペンタックスおよびM[Kマウント]

[AF400FTZ]



AF400FTZはSFXカメラ用の専用ズームストロボ[24 $mm \sim 105 mm$ レンズまで可能]です。ガイドナンバー40[50]mmレンズ·ISO 100]でTTLオートとマニュアルストロ ボ撮影ができます。また、先幕・後幕シンクロ撮影も 可能です。

暗い所でのAFスポットビームの有効距離は約1~6m です。

データバックF

カメラの裏ぶたと交換して、年月日・月日年・日月年・日時分[A/P時分] などの情報を、撮影と同時に写真右下に写し込むことができます。データ不要のときは、写し込み中止も可能。



インターバルデータバックF

データバックFと同様の表示モードのほか、カウントのアップ・ダウンモードや6つの数値をセットできる固定数値表示モードがあります。さらに、インターバルタイマー機能[作動開始時間・撮影間隔時間・撮影コマ数・バルブ時間]により、SFXの撮影を広範囲にしました。



マグニファイヤーF

ファインダー中央部を 2 倍に拡大して見ることができ、マット面で正確なピント合わせができます。全体を見たいときは上方へ倒せる蝶番式になっています。視度調節可能[-4~+4ディオプトリー]SFXには、マグニファイヤー Mはおすすめできません。



57

アクセサリー



セット(ターミナルグリップ付) 寒冷地などの撮影に使用する電池 保温用のアクセサリーです。 リモートバッテリーパック**F**へ単

リモートバッテリーパックF

リモートバッテリーパックFへ単 3形乾電池を4本入れて、カメラ までをコードで継ぐと、パックを ポケットなどに入れて保温しなが ら撮影できます。



ホットシューアダプターF 延長コードF(5P)

SFXカメラからAF400FTZを離してストロボ撮影を行なうときのアダプターとコードです。また、AF080Cリングライトをホットシューの上に取りつけるときは、このアダプターを用いるとシャッターボタン操作が楽になります。



ケーブルスイッチド SFX専用の電磁レリーズです。 三脚やコピースタンドを用いて撮 影するときにご使用ください。 タイム露出も可能です。



赤外線リモートレリーズコードF SFXと赤外リモートコントロールシステム [トランスミッター・レシーバー] を働かせる専用コードで、レシーバーとカメラを接続させます。

アクセサリーの注意

- オートベローズ A は、ダブルレリーズが使用できません。また、縦位置撮影のときは、SFXのグリップを上にしてください。
- 645レンズ用アダプターKを使うときは、アダプターの取りつけ位置によって、固定ネジがSFXに当たる場合がありますのでご注意ください。

電池について

- ●電池は正しく使いましょう。誤った使い方は漏液・ 発熱・破裂の恐れがあります。入れるときは⊕⊖を 正しく入れてください。
- ●単3形乾電池を交換するときは全部を一度に、同一メーカー・同一種類の電池を入れてください。新しい電池と古い電池を混ぜて使ったり、種類が違う電池を混ぜて使うことはしないでください。
- ●カメラを長期間使わないときは、カメラから電池を 出しておいてください。古くなった電池は液もれを 生じ故障の原因になることがあります。
- ●電池を分解したり、充電したり、火の中に入れると 破裂の恐れがあります。
- ●低温では、電池の種類によって差がありますが、性能の低下により、正しく作動しないことがあります。

- ・旅行や野外撮影などには、予備電池を用意しておく と安心です。
- ●カメラバッグなどに入れるとき、シャッターボタンが押されると電池が消耗します。メインスイッチを OFFにしておくと安全です。
- ●内蔵ストロボを連続して使うと、電池が多少温かく なる場合がありますが、これは電池の特性で異常で はありません。
- 撮影可能フィルム本数[24枚撮リフィルム]6 Vリチウムパック電池=約70本単 3 形アルカリ乾電池=約55本[当社試験条件による]







59

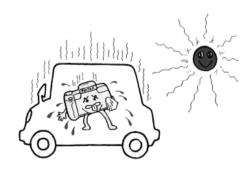
取扱い上の注意

カメラは精密機械です。取扱いは充分ご注意ください。

- ●落としたり、固い物にぶつけないようにしてください。もし強いショックや圧力を与えたときは点検を 受けてください。
- レンズやファインダー窓のホコリはブロワーで吹き 飛ばし、レンズブラシで取去ってください。
- ●高温多湿の所へ保管したり、長時間放置することは 避けてください。特に車の中は高温になることがあ リますのでご注意ください。







- カメラの使用温度範囲は50℃~-10℃です。
- ●暖かい部屋と寒い外などを急に出し入れすると、カメラの内外に水滴を生じます。温度変化の大きいときはバッグやビニールの袋に入れて、10℃の温度変化に対して30分以上をかけ、ゆるやかに変化させてください。
- ●汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの溶剤は使用しないでください。
- ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などが カメラの中に入ると、故障の原因になりますからご 注意ください。保証期間中でも有料修理になる場合 があります。雨や水滴などが付いたときは、良く拭 いて乾かしてください。

- ●一般に、電気系のトラブルは接点部の汚れやゴミが 原因になる場合が多いものです。もし、電気系の不 具合と思われる現象が出たときは、電池の接点や各 部の接点に電池の液もれや手油などによる汚れ、塩 分や特殊ガスなどによる腐蝕、あるいはゴミなどが 付いていないかチェックしてみてください。
 - 汚れやゴミを取除いても不具合の場合は、当社の各 サービスセンターで点検を受けてください。
- ●シャッター幕やミラーには手を触れないでください。
- ●サービスサイズのカラープリントでは画面周辺でフィルムに写っていたものが切られてしまうことがあります。構図を決めるときに少し余裕を残しておくと安全です。
- ●水没品は修理不可能の場合が多くなります。当社の 各サービス窓口にご相談ください。
- ●高性能を保つため、1~2年毎に定期点検をおすすめ致します。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には点検や試し撮りをされるようにしてください。

LCD[液晶表示]について

- ●約60°Cの高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- ●低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので故障ではありません。
- ●バッテリーグリップ着脱時、表示パネルには表示チェック用の全LCDが表われますが、正しい操作を行なうと正常になります。

LCD[液晶表示]用バックアップ回路

撮影途中で、電池交換のために電池を抜いたときは、 表示用の記憶回路が働きますので、撮影枚数やフィル ム感度は引続き正しい情報で使用できます。

61

仕様

型式	──ストロボ内蔵マルチモートTTL AE・AF35mm一眼レフカメラ
画面サイズ	24×36 mm
使用フィルム	35mmフィルム[J135パトローネ入リ]
	35mmDXフィルム=ISO 25~5000 DXでないフィルム=ISO 6~6400[1/3ステップ]
露出モード	──プログラム自動露出[ノーマル(ワイド·標準·テレ)·高速優先·深度優先]、
	シャッター優先自動露出、紋リ優先自動露出、マニュアル露出
シャッター	電子制御式縦走リフォーカルプレーンシャッター
	プログラム・紋リ優先1/2000秒~30秒、シャッター優先・マニュアル1/2000秒~1秒、
	1/100秒、B、電磁レリーズ、メインスイッチOFFでシャッターロック
レンズマウント―――	$$ ペンタックス K_{AF} マウント $[AF$ カプラー・レンズ情報接点付 K マウント $]$
使用レンズ	$$ SMCペンタックス F レンズ[SMCペンタックス・ A ・ M レンズ従来の K_A ・ K マウントレンズの
	うちF5.6以上の明るいレンズはフォーカス表示による撮影が可能。F2.8以上の明るいレンズは
	AFアダプター 1.7 ×により AF 可能。]
オートフォーカス機構――	──TTL位相差検出式 オートフォーカス作動輝度範囲EV2~18[ISO 100]
	フォーカスモード[AFシングル・AFサーボ・マニュアルの 3種]
	合焦速度 最短~∞約0.3秒[Fズーム35~70mm使用時]低輝度時AFスポットビーム[有効距離1~4m]
ファインダー	――ペンタプリズムファインダー[銀コート] クリアーブライトマットスクリーン[交換式]
	視野率 縦・横92% 倍率0.81×[50mm・∞] 視度 調節式−1.5~+1.5D[ディオプトリー]
ファインダー内LED表示—	──フォーカス表示[FI=フォーカスインジケーション]
	○合焦表示[緑LED表示]▶ ◆前・後ピン表示[赤LED表示]
	プログラム自動露出= $P2000\sim$ LT、シャッター優先自動露出 \cdot 絞り優先自動露出= $A2000\sim$ LT、
	マニュアル露出=M2000~LT
	メモリーロック表示=表示LED点滅、露出補正表示=±EFが表示、∮=ストロボ充電完了表示
	手ぶれ警告=30~LT黄色表示、測光連動範囲外=2000またはLTが点滅表示
LCD表示パネル	─プログラム自動露出=PROGRAM. 表示、ノーマル=テレ[Φ]・標準[回]・ワイド[回]表示
	高速優先=■表示 深度優先=■表示
	シャッター優先・紋リ優先自動露出=AUTO表示、マニュアル露出=MAN.表示
	シャッタースピード=2000~30 [100]表示、バルブ=bulb表示、ISO=6~6400表示
	絞りF値=1.2~90表示、露出補正=+4~-4、シャッター・絞り優先マーク=▶表示
	セルフタイマーマーク=◎表示、シングル撮影モード=■表示、連続撮影モード=■表示
	バッテリー警告マーク=━表示、DXマーク=DX表示

始動はシャッターボタン、電子式赤ランプ表示、作動時間約12秒(点滅・音・減算表示)、作動後解除可能 セルフタイマー スイング上昇式、クイックリターンミラー、オートフォーカス用第2ミラー付、 3 5-

オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻上げ、裏ぶたにフィルム情報窓付 フィルム入れー

巻上げ・巻戻し 内蔵モーターによる自動巻上げ・巻戻し式

シングル撮影 連続撮影[約1.8コマ/秒]、フィルム終了時自動停止、

TTL中央重点测光、受光素子GPD、50mm F1.4 ISO 100 EV1[F1.4·1秒]~20[F22·1/2000秒]

+ 4 EV(0 5 EVステップ表示) 霖出捕正-

露出計・測光節囲

ストロボー

シンクロ

雷源

ボタン式[ボタンを押している間ON]、表示中シャッターボタンを軽く押すとメモリーロック継続 メモリーロック

並列制御ストロボ内蔵、GNo.14[ISO 100/m]、35ミリレンズをカバー、充電完了表示ランプ付 同調スピード1/60秒・1/100秒へ自動切換え、日中シンクロ・マニュアルで低速シンクロ可能

不適合レンズの場合、充電完了表示ランプが点滅警告[Fレンズ使用時]

ホットシュー[X接点 専用ストロボ接点付]専用ストロボ連動

6 Vリチウムパック雷池[BR-P2pp, DL223A, 2CR5, EL2CR5] 1個

単3形アルカリ乾電池[LR-6]4本[別売リ単3バッテリーグリップSFX使用]

バッテリーマークおよびファインダー内LED表示点滅警告、消耗時シャッターロック 雷池消耗警告 交換可能、[データバックF・インターバルデータバックF] 裏ぶた

157[幅]×99[高]×63.5[厚]mm 665g[ボディーのみ、電池別] 大きさ・重さ

ホットシューカバーSFX、レリーズソケットキャップF、アイカップF、カメラストラップF付属品

63

お問い合わせは次の各サービス窓口へ





ペンタックスフォーラム (ショールーム·写真展·修理受付)

☎03(348)2941(代)

〒163

東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 新宿三井ビル1階(私書箱240号) 〔年末年始を除き年中無休〕



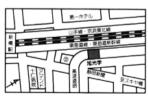
ペンタックスギャラリー (カメラ博物館)

☎03(401)2186

ファミリー (写真クラブ)

☎03(401)2187 **〒106**

東京都港区西麻布3丁目21番20号



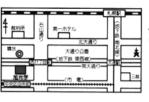
東京サービスセンター

☎03(571)5621(代) 消費者相談室

☎03(572)6479

〒104

東京都中央区銀座西8丁目10番地



札幌サービスセンター

☎011(241)8742(代) **=**060

札幌市中央区

南大通り西11丁目4番27号



仙台サービスセンター

☎022(261)5681(代)

=080

仙台市中央2丁目2番10号 仙都会館4階

新潟サービスセンター

☎025(224)8391(代) **〒**951

新潟市本町通七番町1153番地 日本信販新潟ビル4階

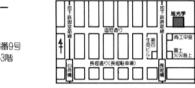


横浜サービスセンター

☎045(681)8771(代) 〒231

横浜市中区不老町1丁目6番9号

横浜エクセレント▼ビル3階



大阪サービスセンター

☎06(271)7996/tt)

〒542

大阪市南区南船場1丁目17番9号



静岡サービスセンター

☎0542(55)6308(代) 〒420

静岡市伝馬町24番2号 住友建設ビル5階



高松サービスセンター

☎0878(21)7650kt

〒760

高松市鍛冶屋町6番地12 池田ビル3階



名古屋サービスセンター

☎052(962)5331(代)

〒461

名古屋市東区泉1丁目19番8号



広島サービスセンター

☎082(248)43216代

〒730

広島市中区中町8番12号 広島グリーンビル2階



金沢サービスセンター

☎0762(22)0501(代) 〒920

金沢市尾張町2丁目8番23号 太陽生命ビル6階



福岡サービスセンター

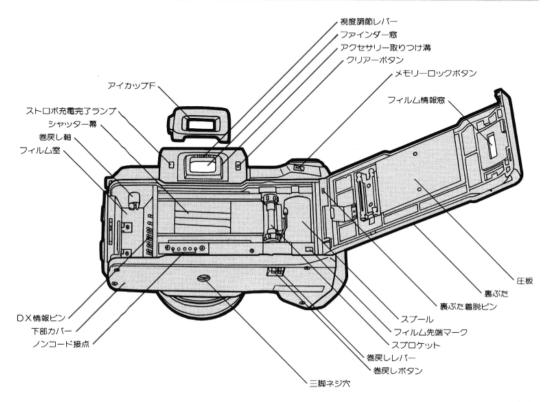
☎092(281)6868ktV

〒810

福岡市博多区中洲中島町3番8号

65

各部の名称



アフターサービスについて

- ●旭光学のペンタックスフォーラムや各サービスセンターでは、ペンタックスカメラをはじめ、各種交換レンズやアクセサリーが展示してあり、手にとってご覧になれます。また、種々のご相談に応じております。お気軽にお立ち寄りください。
- ●他社製品[レンズ、アクセサリー等]との組合 わせ使用に起因する故障については有料とな リます。
- 1. 修理をお急ぎの場合は、当社のペンタックスフォーラムや各地サービスセンターに直接お持ちください。郵送の場合は、カメラの化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかり包装し、書留小包便でお送りください。なお、不良見本のフィルムやプリント、また故障内容は正確にメモして添付していただけると原因分析に役立ちます。
- 2.保証期間中は保証書 [販売店印、および購入 年月日が記入されているもの] をご提示くだ さい。保証書がないと、保証期間中でも修理 が有料になります。なお、販売店または当社 サービス窓口へお届けいただく諸費用は、お 客様にご負担願います。
- 3.保証期間以後の修理は原則として有料です。 なお運賃諸掛りはお客様にご負担願います。
- 4. 本製品の補修用性能部品は、製造打切り後、 10年間を目安に保有しております。したがっ て本期間中は原則として修理をお受け致しま す。なお、期間以後であっても、修理可能の 場合もありますから、当社のペンタックスフ ォーラムや各サービスセンターにお問い合わ せください。
- 5.外国旅行をされる場合、各サービス窓口では お手持ちの保証書と交換に、国際保証書を発 行致します。[保証期間中のみ有効] なお、 特定の旅行先のくわしいアフターサービスに ついては、お問い合わせください。



67

旭光学工業株式会社

〒174 東京都板橋区前野町2丁目36番9号 ☎03(960)5151代

旭光学商事株式会社

〒100 東京都千代田区永田町1丁目11番1号 ☎03(580)2051代